

NEWS TOPICS

3月8日(日)の第2回総会で、堺市博物館学芸員の矢内一磨氏に講演していただきました!

矢内氏のご講演は、大変わかりやすく、とても好評でした。また、内容も下記のように興味深いもので参加者の関心も高く、講演後の質問も相次ぎました。

講演:「堺の復興400年にあたって～江戸時代に学ぶ都市の再生～」

講演の主な内容

- 今年、大坂夏の陣(1615年4月28日)により堺の町が焦土と化してから400年の記念の年(メモリアル・イヤー)である。堺の復興と再生を江戸時代に学び、考えていかなければならない。
- 江戸時代初期の幕府の動きを知る第一等級の史料である「本光国師日記」(徳川家康側近の金地院崇伝(本光国師)の日記)に、大坂夏の陣後の堺復興の日(旧暦の6月18日)について決定された経緯が記されている。
- 戦後の荒廃した町は社会的不安定を招くことから、大坂夏の陣終戦後1か月半での復興事業の開始には、復興を遅らせたくないという幕府の意志が伝わってくる。
- 復興の際、寺町は堺環濠都市の東端に設定された。これは外敵からの侵入を防ぐためと言われていたが、そうではなく、実はこの地域は後背湿地で町家の建設には適しておらず、また、当時武家と寺院以外には土木工事のプロがいなかったため、寺院の土地開発能力をもって都市の活性化を図るという意図があったと考えられる。
- 堺環濠都市の中でも、この北部地区は400年前の町割がとてもきれいに残っており、このような場所はほかにはないのではないかと。
- 堺には何も残っていないという人もいますが、残っているものに気付いていないだけ。
- これらの歴史や文化を「まち歩き」などを通して発見し、「文化知」として集積させていくことが大切であろう。



主な質疑応答

質疑)環濠は当時なぜ必要だったのか。

回答)町の境目として、町が外へ広がらないよう(農地が勝手に宅地化されてしまわないよう)、町を囲うために必要だったと考えられる。また、町の水はけを良くする役目もあったと考えられる。

堺 環濠都市 NEWS

[ニュース]

北部

歴史的まちなみを
未来に活かすため

まちなみガイドラインが
完成しました!

vol.4

INFORMATION

5月10日(日)に第3回(平成27年度第1回)総会を開催します!

平成27年度には、まちなみガイドラインにもとづく修景補助制度がスタートします(詳細は次号でお知らせします)。また、協議会も2年目に入り、本格的な活動を開始します。まず、年度始めにあたり、当該年度の事業計画(案)等をご説明するため下記の日程で総会を開催します。同時に、高名な彫刻家で東京藝術大学教授の籾内佐斗司氏にご講演いただくことになりました。籾内氏は堺市ご出身で、堺名誉大使も務めておられます。あの「せんとくん」の作者といえ、皆さんご存知だと思います。どうぞ、ふるってご参加ください。

今後の予定

第3回総会

場所: 青少年センター 2F 錦西白寿荘(大) 13:30~

5月10日(日) 内容: 平成27年度事業計画(案)等について(予定)

講演「文化財は保護する時代から活用する時代」

彫刻家・東京藝術大学教授 籾内佐斗司氏

※予定は変更になることがあります。

町なみ再生協議会第3回総会のお申し込み・お問い合わせはこちら

▶ 堺環濠都市北部地区町なみ再生協議会 ▶ 堺市 建築都市局 都市計画部 都市景観室

TEL / FAX 072-228-0953 [志賀] TEL 072-228-7432 FAX 072-228-8468 担当: 甲野、垣内、福島

今号の表紙

今号の表紙は、土堀のある町家です。環濠内でも明治時代以降、前面道路に面して門や土堀を持つ住宅が建てられます。前庭には樹木が植えられることも多く、土堀越しに垣間見える樹木は、都市部における貴重な緑となっています。



前号NEWS発行から
現在までの進捗情報

第3回まちなみガイドライン作成分科会開催しました！

| 2015.2.22 青少年センター2階 錦西白寿荘にて 午後2時～ |



まず、都市景観室の職員の方から、『まちなみガイドライン(案)』の説明があり、その後、前回の分科会に続いて、まちなみの将来像の標語(キャッチフレーズ)の最終的な検討を行いました。様々な意見が出たあと、前回の最終案の中の『環』という文字を「つながり」と読まずに、「わ」と読む方がいいという意見が出て、参加者の意見が分かれました。結果的に僅差で「わ」と読むことに決まりましたが、どちらにしても、そこに込められた想いは同じです。以下に、今回決定した標語(キャッチフレーズ)とその説明文をお示しします。

堺環濠都市北部地区がめざす「まちなみの将来像」の標語(キャッチフレーズ)

江戸時代の町割を活かした
環(わ)をはぐくむまちなみ

「環(わ)」という文字に、「人の輪(和)・つながり」「歴史・文化・伝統の継承」「自然・環境との調和」などの想いを込めています。この地域の特徴である江戸時代の町割を活かして、「環(わ)」を育てていけるようなまちなみをつくっていきたいと思います。

堺環濠都市北部地区町なみ再生協議会 第2回総会開催しました！

| 2015.3.8 青少年センター3階 第3集会室にて 午後2時～ |

今年度最後の総会では、標語(キャッチフレーズ)を含む、最終的な『まちなみガイドライン(案)』の説明がなされ、承認されました。また、「平成26年度活動報告及び決算見込みについて」「平成27年度事業計画(案)及び予算(案)について」の報告があり、休憩をはさんで、堺市博物館学芸員の矢内氏のご講演もありました。

矢内氏の講演内容詳細は裏面のNEWS TOPICSをご覧ください！

なお、今回承認されました『まちなみガイドライン』は3月31日発行予定です。このガイドラインにもとづいて修景補助制度もスタートします。冊子をご希望の方は、本協議会または堺市都市景観室までご連絡下さい。



「まちなみガイドライン」冊子の表紙イメージ

PICK UP [アンケート調査の結果]

昨年12月から1月にかけて、堺市との協働により実施したアンケート調査(歴史的なまちなみ再生に向けた支援制度の創設をめざしたアンケート調査)の結果をお知らせします。

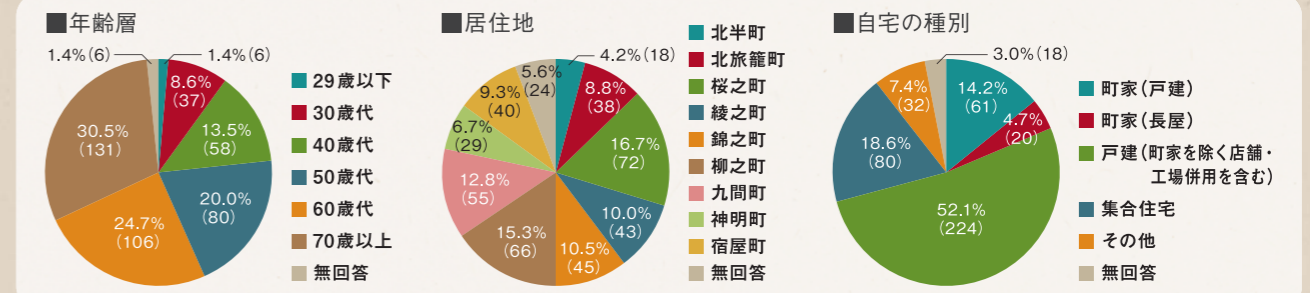
また、アンケートの結果を踏まえ、協議会活動に多くの方が参加してもらえるよう、周知・啓発にむけた取組みを実施していきたいと考えています。



アンケート調査範囲

【概要】

実施主体	堺環濠都市北部地区町なみ再生協議会(協力：堺市)
調査範囲	堺環濠都市北部地区(右図のとおり)
配布時期	平成26年12月8日(月)～平成26年12月10日(水)
回収率	回答のあった調査票430通、回収率15.4%
回答者の属性	下記円グラフを参照

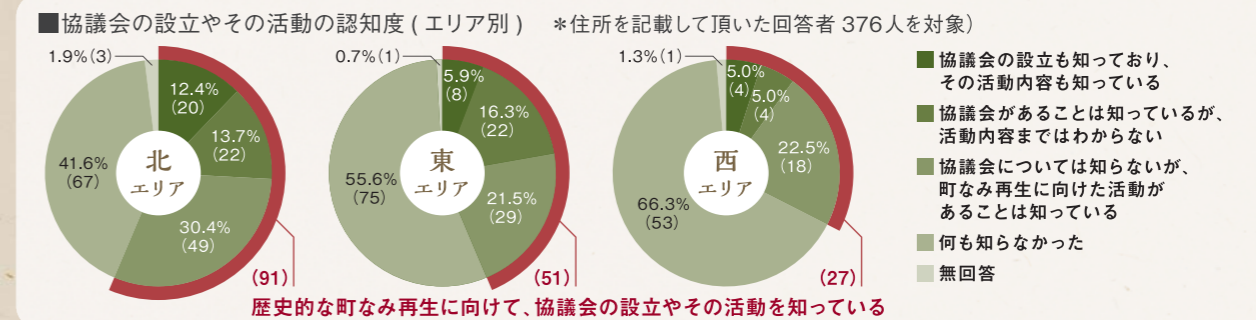


【調査結果】

○協議会などまちなみ再生に向けた活動に関する意識調査

歴史的なまちなみの再生に向けて、協議会の設立やその活動を知っている割合 ⇒ 回答者の約半数(197人、45.8%)

歴史的なまちなみの再生に向けて、協議会の設立やその活動を知っている割合(エリア別) ⇒ 町家が比較的多く残っている北エリアが最も多い(91人、50.6%)



○協議会などまちなみ再生に向けた活動に関する意識調査

協議会の活動に「参加したことがある」「今後参加してみたいと思う」割合 ⇒ 回答者の約4分の1(111人、25.8%)

○修景に関する意識調査

「修景を行いたい」「まちなみのルール、工事費や補助金額の内容によっては修景を検討したい」割合 ⇒ 回答者の約4分の1(116人、27.0%)

